

て「決意」することではなく自然な流れであったようです。専攻は、幼いころから人前で演技をしたり歌ったりするのが好きだったことや、MUN（模擬国連）に参加したきっかけで世界の問題や国連に興味を持ったことから、将来国際的なブロードキャスティングをめざす気持ちをもって決めたそうです。具体的に出願する大学を決めるにあたっては、OISのカウンセラー Mr. Stenger が多くの大学とのメールや手紙のやり取りをしてくれました。

もうひとつ、これは保護者の皆さまへ。日本への帰国の話を聞いた時、Aさんはそのショックから「ちょっとした反抗期に突入」したそうです。親と口を聞かず、泣きながら友達と電話ばかりして親を困らせたとのこと。振り返って思い出せば、「親も相当精神的につらかっただろうな」との思いがこみ上げるそうです。今まさに、同じような辛さを味わっているお父さんお母さん。今は苦しいかもしれませんが、きっと数年後にはこんなことばを成長した我が子の口から聞ける日が来るはずですよ。どうかその日をお楽しみに。

◆ Bさんの場合

Brandeis University, International and Global Studies 専攻

Bさんは、サンディエゴに6年間滞在し、ちょうど帰国と同時に中学一年生として入学し、SISの生徒となりました。

サンディエゴの日差しを思わせる穏やかで明るい笑顔のBさんは、Aさんと同じく英語は本校でのレベル分けの一番上のクラスになり9年生からはOIS Englishを受講しました。また、テニス部では海外遠征を経験しています。が、どちらかというと、のんびりおっとりした性格と生活ぶり。Aさんが意識的にエネルギーに英語力を伸ばす環境を自分で広げたのと比べ、BさんはSISの生徒としてのごく普通の生活の中、ごくごく自然に二つの言語での生活・学習を続けた生徒。特別意識していたわけではないけれど、気がついたら、どちらの言語でも大人として深く考え、生きていける自信が備わっていたということです。

大学進学を考えるときにも「国際平和」という勉強したいテーマが先にあり、日本の某大学某学部、または、アメリカへの留学、という二つの選択肢をはじめから持っていたBさんは、両方の受験準備を平行して進めていました。結果的には、第一希望とした日本の大学に合格ならず、その後集中的にアメリカ留学に向けての本格準備を進めることになったのです。

Bさん曰く、「うちの学校は海外の大学の資料が多すぎ。多すぎてどう探していいのか戸惑った」と。彼女は、担任がアメリカ人教員でしたので、その膨大な情報の中から絞って北米での大学選びをするにあ

たって、まず担任に相談し、援助を受けることができました。さらにOISとSIS両方のカウンセラーにも相談し、具体的なサポートを受けたそうです。「少人数教育のSISのよさをこの時あらためて感じた」とのこと。

Bさんは今アメリカで多様なバックグラウンドを持つ学生たちとの様々な交流を楽しむと同時に、日本語を教えたり日本人会を立ち上げたりと、多忙で充実した学生生活を送っています。「日本の大学では味わえなかったであろうこと、日本人の留学生としてならではの生活がとて楽しくて、アメリカに来て本当によかった。」というBさんは第一希望の進路先に合格できなかったことなどもう記憶に残っていないかもしれません。

◆ C君の場合

University of Denver : Computer Science

最後に紹介するC君はさわやかなスポーツマン。高校2年生からSISの生徒になりました。テネシー州に二度、4年余りと5年、通算約10年の滞在を経ての編入でした。帰国当時は、すでにアメリカで進学したい大学について考えていた年齢でもあり、日本への帰国ということを実感として受け入れるのがとても難しい、そんな状態であったそうです。

そんなC君も、日本に帰ってみると日本の大学に進学することのよさも感じ、アメリカと日本の両国を視野に入れて進路先を検討しました。最終的には学びたいと思った内容（Computer Science）に関し、日米の多くの大学の内容を検討し、最新のことを学ぶにはやはりアメリカだ、と決めたそうです。アメリカでの高校生としての経験があったC君は、アメリカに友人も多く、情報の得方もわかっていたため、進路先を決定するのに学校から受けたサポートは、AさんやBさんに比べると、少なかったかもしれません。が、OISカウンセラーのところにも何度か通って詳しい情報を得たり、SATを学校で受けることができたのはとても助かった、と語ってくれました。

C君は今、「大学での勉強は大変ですが、何かを学んでるって実感があって勉強が楽しくなってきました。」との気持ちでがんばっています。

3人の体験が参考になれば幸いです。皆さんがアメリカでますます充実した生活を送られますように、そして安心した気持ちで日本に帰国されるようにと願っています。See you soon.

千里国際学園 中等部・高等部
〒652-0032 大阪府箕面市小野原西4-4-16
電話 072-727-5070, FAX 072-727-5055
www.senri.ed.jp
admissions@senri.ed.jp

井藤 真由美

いとう まゆみ

アドミッション / 英語科

1959年大阪生まれ。大阪市立大学文学部卒。大阪府立高校に10年間勤務の後、1993-1998年、アメリカでシカゴとサンディエゴに在住。サンディエゴでは応用言語学を専攻し修士号(M.A.)を取得。3人の子どもの子育てを通して、現地保育園、幼稚園、小学校、そして土曜日補習校を経験する。2000年より千里国際学園中等部・高等部に勤務。



編集長から一言

千里国際学園高等部を卒業後、北米の大学へ進学した卒業生の体験をまとめていただきました。

授業だけではなく、カウンセリングや進学へのアドバイスなどで、同居するインター(OIS)の先生やリソースを、この生徒さんたちがどのように活用したのかが具体的に語られています。

また、それぞれの卒業生が、どんな気持ちやプロセスを経て、海外の大学を選び、学んでいるのかが、とてもよく解ります。

海外の高校生や保護者に役立つレポートを、井藤先生、ご苦労様でした。